

中国都市部中高年齢者の生活史とライフスタイルに関する研究 — 大連市中高年2家族の事例研究 —

徐 学超 丸山 富雄

キーワード：生活史 ライフスタイル コーホート 中高年齢者 中国

Life history and lifestyle of the middle aged people in the city of China — A case study of two families in Da Lian —

Jyo Gakucho Tomio Maruyama

Abstract

This study investigated two Chinese families of 50s in Da Lian to comprehend how people of middle and old age in modern Chinese cities lived, spent their time for leisure, and thought about their lives.

For this purpose, we choose two families and studied about their family roots and life histories in details, concentrating on the relationships between their lives and the Cultural Revolution, which was the most monstrous event in the modern history of China.

We adopted cohort analysis as our best analyzing method. We also used document analysis in order to analyze their diaries from 15 March to 15 June 2006, those result was expected in particular to reveal their modern life style.

Our study made it clear that both of the families have worked harder and harder for their parents, children, and for their living in the turbulent periods in Chinese history, and now they live well-off lives in 'syaku'.

Key words : life-history, lifestyle, cohort, middle aged people, China

はじめに

1949年の中華人民共和国成立まで、中国の経済はきわめて立ち遅れた状況にあった。今では、中国はすでに大きな発展のポテンシャルを持つ経済大国の一つとなり、人びとの生活も全般的に見ればいくらかゆとりのあるレベルに達している。特に1979年から現在まで続く27

年間にわたる改革開放政策によって、中国の経済はかつてない急速な成長をとげた。21世紀に入って以来、中国の経済は引き続き着実かつ急速な成長を保っている。2004年に中国政府はマクロ調整をさらに強化、改善させ、国民経済はここ数年来最もすばらしい発展期に入っている。

このような経済成長や発展によって、人びとの暮らしや生活も大きく変わってきた。特に都市部においては、人々の所得は絶えず向上し、個人資産が増えつつある。住宅、自動車、パソコン購入、株式投資、海外旅行は人びとの投資および支出の主な内容となっている。それに伴い、余暇生活を含め、国民の生活のあらゆる領域にも変化が現れていると考えられる。

しかし、一方では人びとの生活意識や暮らしぶりには世代で共通したものが見られる。それは同世代の人びとが、これまでのライフサイクルの中で、同じような経験や体験をしてきたからに他ならない。このような考え方から、同時出生集団いわゆる「コーホート」分析の研究がライフサイクル研究の中で展開されてきた。

本研究では大連市に住む50歳代2家族を事例に、現在の中国の都市部中高年者の生活や余暇の実態及び意識を明らかにすることが研究の目的であるが、彼らが生きてきた近代中国史は激動の時代であり、その分析にはコーホート分析が最も適していると考えられる。社会の歴史的事件と対象2家族のイベントを重ね合わせ、彼らの生活史を詳細に記述したい。また現在のライフスタイルについては、特に余暇活動に関することを中心に、旧正月の終わった2006年3月15日から7月15日までの4ヶ月にわたる日記を分析するというドキュメント分析の手法により行った。

1. 調査対象2家族の概要

1) 家族A：6人家族

男性Aは1949年に遼寧省丹東市に生まれ、10人兄弟の次男。高校を中退後、1968年に就職。女性Aは1950年に生まれ、9人兄弟の次女。高校卒業後、Aと同じ企業に就職。1974年、結婚。

1986年に夫婦で仕事をやめて花養殖の自営業を興す。その後、1991年、1993年、1996年、さらに2001年と仕事を替え、2004年に退職。

子供4人。上二人は結婚し独立、下二人は現在日本に留学中である。

2) 家族B：3人家族

男性Bは1953年に莊河市で生まれ、3人兄弟の次男。女性Bは1954年に同じく莊河市に生まれ、5人兄弟の長女である。二人とも高校卒業後すぐに同じ国有企業で働き、1976年に結婚。

90年に入り、国有企業の低迷とリストラに直面し、株式の運用を始める。1998年、大連市でアクセサリー販売を始める。子供は1人、現在、銀行に勤めている。

2. 事例2家族の生活史

近代中国史は激動の歴史でもある。ここでは事例2家

族のルーツ、生活史を近代中国史を代表する大事件と関連させながら記述することにする。

1) 東北移民

中国近代東北移民という出来事がある。それは清の時代に始まり、移動人口の多さはその当時、人類史上最大の移動とも言える。中国語で「闖関東」と言う。事例としての二つの家族の祖先は、いずれも飢饉を逃れて一家をあげて山東省から東北に移住している。勤勉は山東人の性格の特徴の一つともいえる。家族を連れて東北に移住してから、皆一生懸命働いた。食料は生活の中心であり、その食料を得るために土地を持つことは何よりも重要であった。したがって、家族の中で働ける者全員が荒野や山野を開墾して自分の土地を増やしていった。土地が増えるに従って、生活も豊かになった。家を建て、立派な家族団地も造られていった。現在遼寧省丹東市のある地域はまだ「A家堡」と呼ばれ、昔、家族Aが集団的に住んでいた証拠である。40年代に入り、中国はベビーブームになり、人口が急増加した。事例としての2家族は皆兄弟5～6人以上である。

2) 土地改革と身分制

中国では、1949年の建国後すぐに土地改革を行なった。改革の柱は、地主階級を消滅させることと小作人が土地を所有することの二点である。中国共産党はさらに、国民をよい階級と悪い階級に分けた。「地主、富農、反革命、悪人」の四分類を悪い階級として迫害し、貧農ほどよい階級とした。前述のように、事例としての2家族は20世紀初め、東北大移民で東北地方に足を運び、その後家族が全力で荒野を開墾し、自分の土地に変えていった。2家族はそれぞれ多くの土地を所有し、小作人を雇って畑仕事をさせていたことから、皆「富農」の階級に入っていた。しかし建国後の土地改革によって、それらの土地は没収され、さらに「地主、富農、反革命、悪人」の中の「富農」、悪い階級として位置付けられた。幸い、地主の階級に分けられなくてよかったとよく家族Aが嘆いていた。何故ならば、その後の階級闘争は特に地主身分の家族に大きな打撃を与えたからであった。政治闘争の際に利用されただけでなく、軍隊に入ってはいけないとか、結婚相手は同じ身分同士でないとだめとか、昇進や子弟の進学・就職・結婚なども大きく左右した。

3) 三年自然災害と飢饉

1959年から1961年にかけての3年間、中国では「三年自然災害」と言われる大飢饉に見舞われる。洪水、干ばつなどでほとんど収穫がなく、経済状況が悪化する中、さらに中ソ関係の対立も表面化し、1960年7月にはソ連が中国に対する技術支援を打ち切るという実態が

発生する。飢饉で無くなった人は、8年間の抗日戦争で無くなった人の1.5倍の3000万人であった。人類史上、平時での飢饉で無くなった人数の最高記録と言われている。食べ物が無く、人びとは木の皮、葉までも食べたと言う。女性Aの兄はこの時期に結核を患い無くなった。男性Bはもともと6人兄弟で、この3年間で3人の兄弟が餓死している。男性Aはこの時期、10歳から12歳、男性Bは6歳から8歳で、小学生の食べ盛りであった。大変な苦勞をし、それぞれ辛うじて生き残った。それ故2家族は現在裕福になっても、その時のことを忘れず、「感謝の気持ちを込めて食べなさい」、「食べ物を絶対粗末にはしてはいけない」と、子供たちを躾けてきた。

4) 文化大革命

文化大革命は、中華人民共和国で1960年代後半から1970年代前半まで続いた毛沢東らが引き起こした権力闘争をいう。無産階級文化大革命、プロレタリア文化大革命ともいう。「文化大革命」は、国家に大災害をもたらし、事例とした家族の親達も、農村に下放されて理想が壊されたり、多くの人が政治闘争や迫害を受ける状況の中で、離合集散による喜びや悲しみを味わったりするなどの目であった。彼らの一生の中で文革はもっとも大きな影響を与え、彼らにとってもっとも貴重な、教育を受けるべき10年の歳月を浪費してしまった。小学校も卒業できない人が多くいた。事例とした家族の世代の共通した特徴は、次の世代に対し、自分たちが若いころ実現できなかった夢や希望を託すことである。

5) 改革開放のスタート

改革開放のスタートは、1978年12月に開催された中国共産党11期三中全会である。三中全会は、本格的な鄧小平時代の幕開けとなった。改革政策は農村部から始まった。人民公社を解体し、農民をその束縛から解き放った。収穫の一定量を国に収めれば、あとは自由に売れるようになったことで、農民の意欲がかきたてられ、自由市場が発達した。農民の収入は増大し、農村経済の発展に結びついた³⁾。事例としての2家族は大体この時期に結婚し、子育ての生活が始まった。

6) 市場経済の深化

1989年6月の天安門事件による外交的孤立と、改革開放に消極的な保守派の台頭という内憂外患の前に、鄧小平は乾坤一擲の勝負に出る。改革開放は100年はやると言明、「てん足女のようなヨチヨチ歩きではダメだ。改革開放をさらに加速させなければならない。」と全国に檄を飛ばしたのである。中国の経済、社会は激変にみまわれた。万元戸（お金持ち）の出現、株式ブーム、下海（転

職して事業を起こすこと）ブーム、出稼ぎ農民の急増などである。

7) 下崗（リストラ）と下海（自営業・商売）

長く国有企業に勤めていた2家族は、国有企業の低迷と下崗（リストラ）に直面し、夫婦2人合わせても月給が800元に満たなかった。そこでこの時期、2家族とも会社を辞職し（家族Aは1986年、B1990年）、新しい道を歩み始める。前述のように家族Aは花の養殖や企業を興し、転職をしながら会社を経営する。家族Bは株式投資の後に自営業を始める。しかし、商売を知らなかったため、しばらく仕事が見つからなかったり、株の知識も無かったりと、2家族とも当初は大変な苦勞をし、現在の安定した生活に至っている。

8) まとめと生活信条

これまで事例2家族の生育史あるいは生活史を、コーホート分析の手法によって記述してきた。両家族とも同じような生活史の変遷を辿っているが、これをフローチャートにまとめたものが図1である。

事例2家族とも、祖先は山東省からの東北移民であり、一族で苦勞をし、「富農」となった。しかし中華人民共和国建国以来、この「富農」が逆に災いとなり、文化大革命時には迫害や悲惨な目にあっている。事例2家族の男女とも、この革命の時期は10代半ばから20代半ばの教育期あるいは多感な時期であった。満足に教育を受けることもできず、また親の悲惨な状況を目の当たりにし、その後の生活意識や価値観に大きな影響を与えるものとなっている。

その後、両家族共に国有企業に勤めるが、国有企業の低迷と市場経済の進展から、共に20年程度で退職し（男性は共に37歳）、株や自営業を始め、50歳代半ばで第一線から退いている。

このような生活史や生活体験から、この2家族を含めたこの世代の生活信条として、次のことが指摘できよう。

- ①「勤勉に働き、生活を豊かにし、また貯蓄すること」
- ②「自らを犠牲にしてまでも子供に投資すること」
- ③「親の面倒を見るのは当たり前ということ」

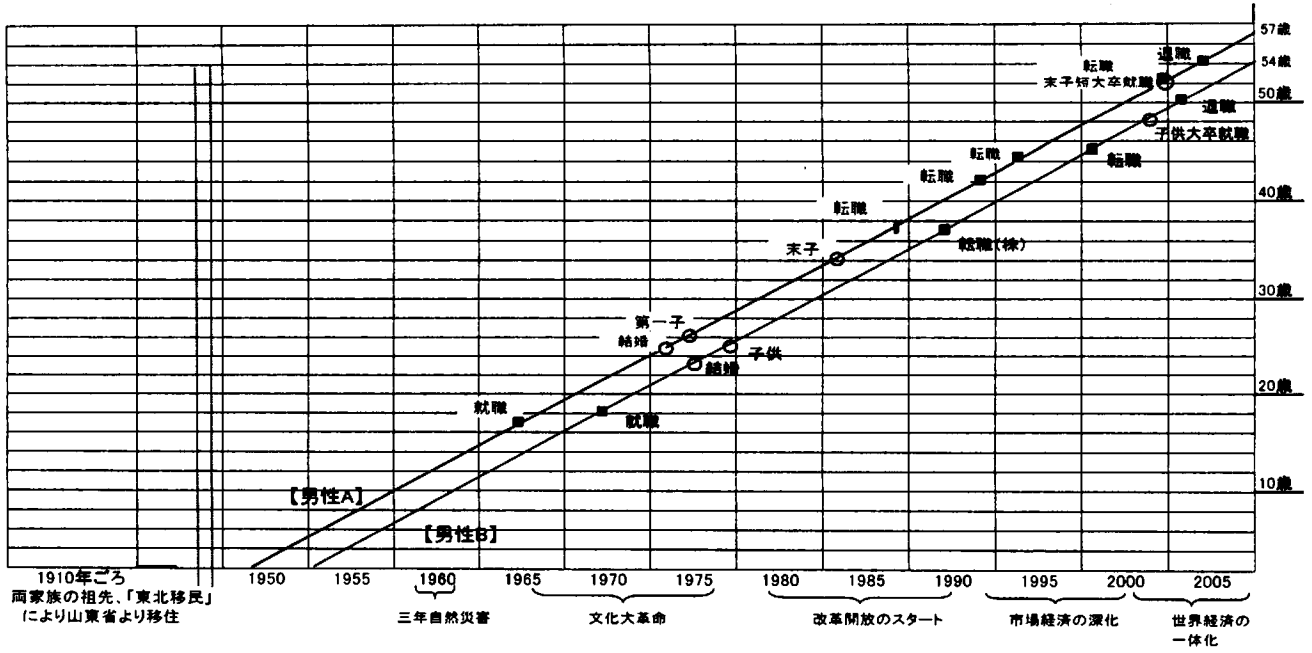


図1 事例2家族のコーホート

3. 現在のライフスタイル

現在の中国都市部中高年者のライフスタイルはどのようなものか。事例2家族の4ヶ月の日記を基に、生活行動、生活時間、生活空間、また家計の収支状況から分析する。

1) 1日の生活時間

最初に家族Aの典型的な一日の日記から、生活行動を概観する。

表1) 家族Aの一日の生活行動と生活時間

	生活行動と生活時間	
	男性	女性
生活必需行動	睡眠 9時間 食事 1.5時間	睡眠 10時間 食事 1.5時間
社会生活行動	会社の手伝い 9時間	家の片付け 0.5時間 食事の準備 1.5時間
自由時間行動	新聞を読む 0.5時間 散歩 2時間 テレビを見る 1時間 お茶を飲む 0.5時間	友人との交流 4時間 散歩 2時間 テレビを見る 2時間 カラオケ 0.5時間

この結果、典型的な中国都市部中高年齢者の平日1日の生活時間は、生活必需行動が10時間から11時間程度、社会生活行動は、男性9時間、女性2時間、自由時間が男性4時間、女性約8時間ということが出来る。NHKの国民生活時間調査(2005年)と比較すると、中国人の方が男女共、特に女性の自由時間が日本人よりもかなり多いことがわかる。その違いは中国人の朝・夕方合わせて2時間程度の散歩の時間がかなり影響していると思われる。

2) 生活行動

四ヶ月の日記から、事例2家族の生活行動の状況を表2~表5にまとめた。

表2) 3月の生活行動の記録

		3.15~4.15			
		回数	場所	同伴・仲間	
家族A	生活行動の内容				
	朝市の買い物と散歩	週5回	朝市	夫婦	
	夕食後の散歩	週5回	公園・広場	夫婦・孫	
	スーパーへの買い物	週4回	スーパー	夫婦・孫	
	サウナ・蒸し風呂	4回	公衆浴場	夫婦	
	テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・孫	
	器械の無料体験	週3回	区サービスのセンター	夫婦・区友人	
	健康診断	1回	区サービスのセンター	区友人	
	孫の面倒をみる	週3回	家・遊園地	孫	
	会社の手伝い	週5回	会社	男性Aと会社人間	
	ドライブ	4回	郊外・遊園地	夫婦・孫	
	外食・会食	4回	レストラン・家	家族	
	カラオケ	週4回	家	女性A	
	家事・掃除	週3回	家	女性A	
	お墓参り	1回	ふるさと	夫婦	
仏事	1回	ふるさと	家族		
親の見舞い	1回	実家	夫婦		
その他					
家族B	朝市の買い物と散歩	週5回	朝市・公園	夫婦	
	夕食後の散歩	週5回	広場・近所の山公園	夫婦	
	スーパーへの買い物	週4回	スーパー	夫婦	
	サウナ・蒸し風呂	4回	浴場	夫婦	
	テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・区友人	
	器械の無料体験	週3回	区サービスのセンター	夫婦・区友人	
	健康診断	1回	区サービスのセンター	夫婦・区友人	
	新聞を読む	毎日	家	夫婦	
	ボランティア	2回	デパートの前	女性B・区友人	
	ドライブ	1回	山	家族	
	外食・会食	3回	レストラン・家	家族	
	お墓参り	1回	故郷	夫婦	
	家事・掃除	週3回	家	女性B	
	後輩の来訪	1回	家	後輩	
	親戚の引越祝い	1回	親戚の新居	親友	
麻雀遊び	3回	区サービスのセンター	区友人		
孫の交流会	2回	区サービスのセンター	区友人		
パート	週4回	ホテル	男性B		
その他					

表3) 4月の生活行動の記録

		4. 15~5. 15			
生活行動の内容	回数	場所	同伴・仲間		
朝市の買い物と散歩	週5回程度	朝市	夫婦		
夕食後の散歩	週5回程度	公園・広場	夫婦・孫		
スーパーへの買い物	週4回程度	スーパー	夫婦・孫		
サウナ・蒸し風呂	2回	浴場	夫婦		
テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・孫		
器械の無料体験	週3回	区民センター	夫婦・区民の友人		
健康診断	1回	区民センター	夫婦・区民の友人		
新聞を読む	ほぼ毎日	家	男性A		
会社の手伝い	週5回	会社	男性Aと会社の人間		
ドライブ	4回	郊外・遊園地	夫婦・孫		
外食・会食	4回	レストラン・家	家族		
カラオケ	週4回程度	家	女性A		
家事・掃除	週3回程度	家	女性A		
山菜取り	2回	山	区民の友人		
結婚式	1回	北京	夫婦		
北京の旅行	一週間	北京	夫婦		
その他					
朝市の買い物と散歩	週5回程度	朝市・公園	夫婦		
夕食後の散歩	週5回程度	広場・近所の山公園	夫婦		
スーパーへの買い物	週4回程度	スーパー	夫婦		
サウナ・蒸し風呂	4回	公衆浴場	夫婦		
テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・区民の友人		
器械の無料体験	週3回	広場・近所の山公園	夫婦・区民の友人		
健康診断	1回	区民センター	家族		
新聞を読む	ほぼ毎日	家	夫婦		
ボランティア	2回	デパートの前	女性B		
ドライブ	1回	山	家族		
外食・会食	3回	レストラン・家	家族		
山菜取り	4回	近所の山	区民の友人		
家事・掃除	週3回程度	家	夫婦		
親戚の来訪	一週間	家	親戚		
大連市観光	三日間	大連市各観光名所	親戚		
園遊会	3回	公園	夫婦		
株の交流会	2回	区民センター	区民の友人		
パート	週4回程度	ホテル	男性B		
引越し祝い	1回	親戚の新築	親友		
その他					

表4) 5月の生活行動の記録

		5. 15~6. 15			
生活行動の内容	回数	場所	同伴・仲間		
朝市の買い物と散歩	週5回程度	朝市	夫婦		
夕食後の散歩	週5回程度	公園・広場	夫婦・孫		
スーパーへの買い物	週4回程度	スーパー	夫婦・孫・区民の友人		
サウナ・蒸し風呂	4回	浴場	夫婦		
テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・孫		
結婚式	2回	ふるさと	親戚		
誕生日祝い	1回	レストラン	親戚		
健康診断	1回	区民センター	夫婦・区民の友人		
会社の手伝い	週5回程度	会社	男性Aと会社の人間		
孫の面会	週3回程度	家・遊園地	夫婦・孫		
ドライブ	2回	郊外・遊園地	家族		
カラオケ	週4回程度	家	女性A		
外食・会食	3回	レストラン・家	家族		
大連アアジア祭りへの出かけ	1回	星海公園	家族		
園遊会	3回	広場	夫婦・区民の友人		
その他					
朝市の買い物と散歩	週5回程度	朝市・公園	夫婦		
夕食後の散歩	週5回程度	広場・近所の山公園	夫婦		
スーパーへの買い物	週4回程度	スーパー	夫婦・区民の友人		
サウナ・蒸し風呂	4回	公衆浴場	夫婦		
テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦		
器械の無料体験	週3回	区民センター	夫婦・区民の友人		
健康診断	1回	区民センター	夫婦・区民の友人		
新聞を読む	毎日	家	夫婦		
旅行	一週間	四川	夫婦		
ドライブ	1回	郊外	家族		
外食・会食	3回	レストラン・家	家族		
広場の夜更かし	2回	広場	夫婦		
家事・掃除	週3回程度	家	女性B		
大連アアジア祭りへの出かけ	1回	星海公園	家族		
結婚式	1回	旅館	親友		
出張祝い	1回	レストラン	親戚		
株の交流会	2回	区民センター	区民の友人		
パート	週4回程度	ホテル	男性B		
その他					

退職中高年家族ということで、ほとんど変化のない毎日を送っているが、次のような事項が特徴的である。

- ①朝夕、毎日の2時間程度の散歩。
- ②週3~4回のスーパーへの買い物。無料送迎バスでエアコンの効いた快適な中で、気持ちよく半日を過ごす。
- ③テレビの視聴。平日で男性1時間、女性2時間程度で、日本の50歳代男女の平日の視聴率と比較すると、日

表5) 6月の生活行動の記録

		6. 15~7. 15			
生活行動の内容	回数	場所	同伴・仲間		
朝市の買い物と散歩	週5回程度	朝市	夫婦		
夕食後の散歩	週5回程度	公園・広場	夫婦・孫		
スーパーへの買い物	週4回程度	スーパー	夫婦・孫		
サウナ・蒸し風呂	4回	公衆浴場	夫婦		
テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・孫		
器械の無料体験	週3回	区民センター	夫婦・区民の友人		
健康診断	1回	区民センター	夫婦・区民の友人		
孫の面会	週3回程度	家・遊園地	夫婦・孫		
会社の手伝い	週5回程度	会社	男性Aと会社の人間		
ドライブ	4回	郊外・遊園地	夫婦・孫		
外食・会食	4回	レストラン・家	家族		
カラオケ	週4回程度	家	女性A		
家事・掃除	週3回程度	家	女性A		
新聞を読む	ほぼ毎日	家	夫婦		
薄への出かけ	1回	薄	家族		
その他					
朝市の買い物と散歩	週5回程度	朝市・公園	夫婦		
夕食後の散歩	週5回程度	広場・近所の山公園	夫婦		
スーパーへの買い物	週4回程度	スーパー	夫婦		
サウナ・蒸し風呂	4回	公衆浴場	夫婦		
テレビを見る	ほぼ毎日	家	夫婦・区民の友人		
器械の無料体験	週3回	区民センター	夫婦・区民の友人		
健康診断	1回	区民センター	家族		
新聞を読む	毎日	家	夫婦		
ボランティア	2回	デパートの前	女性B		
ドライブ	1回	山	家族		
外食・会食	3回	レストラン・家	家族		
お墓参り	1回	故郷	夫婦		
家事・掃除	週3回程度	家	夫婦		
後援の来訪	1回	家	後援		
結婚式	1回	故郷	親友		
園遊会	3回	区民センター	区民の友人		
株の交流会	2回	区民センター	区民の友人		
パート	週4回程度	ホテル	男性B		
その他					

本人のほうがかなり長い。ここでも中国人の生活が活動的であることがわかる。

- ④特に女性の場合、区民センターでのおしゃべりや健康器具等の体験。区民センターは団地のコミュニティ・センターとして大きな役割を果たしている。医療機関の無料キャンペーンを利用したり、友人と体操やおしゃべりをするため、毎日のように通っている。
- ⑤月に2・3回の友人や親戚との「お呼ばれ」、すなわち祝事や仏事。兄弟も多く、多い時には、月に4回程度誘われている。

3) 生活空間

(1) 区民

事例2家族の生活空間の中で、非常に重要な位置を占めているのが「区民」である。1980年代中期から、区民建設が始まり、生活困窮家庭や身体障害者、老人へのサービスばかりでなく、修理や裁縫、医療のサービス、後には文化・スポーツ活動の組織化や社会治安、環境衛生の整備などあらゆるものを網羅するようになった。注目すべきことは、「区民」の発展にともなって、住民の社会への参加意識や民主的意識が高まってきたことである。事例2家族の夫婦もそこで様々な活動を行い、区民は家の次の第二の居場所ともなっている。

(2) 広場

中国大都市の住民、特に中高年齢者にとって、散歩や体操、各種軽スポーツの場としての広場も、重要な生活空間の一つである。

4) 家計

(1) 収入

表 6) 2 家族の平均月收入

家族 A	5400 元 (会社給与、店舗賃貸料)
家族 B	7050 元 (年金、パート給与、店舗賃貸料、子供からの援助)

家族 A は、毎月平均 5400 元 家族 B は 7050 元程度の収入がある。大連市統計年鑑等よれば、この 2 家族の暮らしぶりは平均よりやや上とすることができる。

(2) 支出

家計からみた事例 2 家族の 4 ヶ月の支出状況は表 7 のとおりである。

突出した旅行費用を除くと、2 家族とも月 1500 元から 2000 元程度の支出ということがわかる。物価が安いこと、2 家族とも住宅や車のローンも無いこと、また支出内容からはいわゆる「派手な」生活をしていないことも分かり、平均してこのような金額で生活している。

表 7 4 ヶ月の支出内容

使途	3. 15~4. 15		4. 15~5. 15		5. 15~6. 15		6. 15~7. 15	
	家族A	家族B	家族A	家族B	家族A	家族B	家族A	家族B
食料品	279	399	257	198	227	336	253	194
日常消耗品	10	14	16	8	7	12	10	13
水・ガス・電気料	136	109	94	86	120	84	96	83
交通費	12	2	8	25	19	25	10	200
社区管理費	30	20	30	20	30	20	30	20
洋服	120	50	25	100	12	160	70	250
外食・会食	120	360	246	500	197	150	201	176
電話代	146	96	128	85	104	79	120	93
薬代	80	30	86	24	98		86	36
入浴料	48	48	36	48	48	48	48	24
駐車料金	90	120	90	120	90	120	90	120
ガソリン代	97	100	75	297	146	103	110	97
娯楽施設入場料	8			500	16		10	
旅行			4000			6000		
各種保険金	300	288	300	288	300	288	300	288
健康食品・器具	50	150	500	25		800	399	
親友の呼ばれ	200	100	1000	300		300	200	
合計 (単位: 元)	1726	1886	6891	2624	1414	8525	2033	1594

(3) 貯蓄

2 家族とも、改革後、自営業を始めたことをきっかけに貯蓄が増え、その貯蓄を計画的に活用してきた。

現在も、家計の収支残金はそのほとんどを貯蓄にまわしている。それらは突発的なことを除けば、家族 A では娘 2 人の留学費用に、家族 B は息子の結婚資金に当てているようである。

4. まとめ

大連市に住む中高年 2 家族を事例に、いわゆる「文革」世代の人々の生活史およびそこから得られた生活信条を、コーホート分析あるいは生活史法の手法によって記述してきた。また現在のライフスタイル、すなわち生活様式や生き方に関しては、2 家族の 4 ヶ月に亘る日記を基に、生活行動、生活時間、生活空間、また家計の分析から考察した。

2 家族とも、中国建国以来の社会の激動の中で、勤勉に遮二無二働き続けてきたと言ってよいだろう。それは生活のため、親のため、また子供のためでもある。日本の戦後から高度経済成長期に、欧米諸国から「働き蜂」と揶揄された、日本のベビーブームの親世代と対比する

ことができる。しかし彼らと大きく異なる点は、目覚しい経済発展の中で、中国の「文革」世代は多くの人々が転職や起業家となり、より多くの収入を目指していることである。その意味では、終身雇用慣れ親しんだ日本人よりも投機的な性格を有していると言っても良いだろう。

しかしその暮らし方、いわゆるライフスタイルは決して派手ではなく、親戚や友人との付き合いを大事にしながら、健康的で堅実な生活を現在も送っている。中国の都市部の結婚式は普通で 10 万円ほど、また子供のための新築マンションも、大連市の場合、小さいものでも 50 万元以上掛かると言われている。中国ではこれらの費用のほとんどを親が面倒をみている。中国の物価や収入と比較するとこの金額はかなり高額なものである。そのため中高年になっても子供のために節約と貯蓄をするという考えは、多くの中国人に一般的となっている。

次に現在の中国人、特に中高年齢者の健康志向は、事例 2 家族をみても分かるように、非常に高いものがある。朝早くからの散歩や広場での体操など、中国のどこの都市でも見られる光景である。中国では伝統的に太極拳などが古くから公園等で行われてきたが、フィットネス(健身)と言う言葉が使われだしたのは 80 年代末と言われ

ている。大都市にフィットネスクラブが進出するが、庶民、特に中高年齢者にとっては無料または非常に安価な公園での健康法が流行りだす。1995年の中国政府による「全民健身計画要綱」の制定もこのブームに拍車をかけていると言えよう。いずれにしても中国の中高年齢者は、家の中でテレビを見て過ごすと言うよりも、健康的で活動的な生活を送っていると言えよう。

また現在の中国都市部での生活に欠かせない生活空間として、「社区」の存在が指摘できる。中国近代化の一つの側面とも言えよう。磯村⁷⁾はかつて、「レクリエーションのための空間」あるいは「住民にとっては魅力のある自由な空間」としての「第三の生活空間」の重要性を説いた。その代表は言うまでも無く、家庭（第一空間）、職場（第二空間）とはかけ離れた、匿名で身分から解放された平等感を味わうことのできる地域社会である。日本では地域社会が必ずしもこの「第三の生活空間」としての機能を十全には果たしてこなかった。一方現在の中国の「社区」は、事例2家族のそこでの利用をみる限り、様々な住民サービスを提供すると同時に、住民にとってはそこでくつろぎ、いつでも行きたくなるような魅力ある自由な空間として機能しているようである。今後、中国は極端な少子高齢社会を迎える。今後の高齢者のためにも「社区」の役割はますます重要になってくると予想される。

最後に、現在の中国の経済発展に伴い、貧富の格差、都鄙間の格差、また各世代間においても、そのライフスタイルや価値観は多様化すると考えられる。「不易と流行」という言葉がある。現在の中高年齢者の生活史を振り返り、また彼らのライフスタイルから学ぶことも忘れないでほしいと思う。

本研究では、大連市に住む中高年2家族を事例に、いわゆる「文革」世代の人々の生活史および現在のライフスタイルを分析してきた。2家族とも、中国建国以来の社会の激動の中で、生活のため、親のため、また子供のため、勤勉に遮二無二働き続け、現在は社区を利用して豊かに暮らしていることがわかった。

引用・参考文献

- 1) 「中国近代农业史資料」第3輯, 1985.
- 2) 「中国近代農業史資料 1957年版」第2輯, 三联書店, 1958.
- 3) 張利民「中国社会経済史研究」天津社科院歴史所, 1998.
- 4) 趙文林等「中国人口史」人民出版社, 1988.
- 5) 中国情報局ホームページ, seachina.ne.jp.
- 6) 大連市統計年鑑, 2006.
- 7) 磯村英一「都市論集Ⅲ」有斐閣, 1989.
- 8) 「人民中国」2002年12月号, 特集「どう変わる? 中国人の意識と暮らし」
- 9) 「人民中国」2003年2月号, 特集「高齢化社会を迎えて」
- 10) 「人民中国」2004年3月号, 特集「13億の生活革命: 子育ての今、昔」
- 11) 「人民中国」2002年10月号, 特集「社区の現状と未来」
- 12) 「人民中国」2003年7月号, 特集「13億の生活革命: 近づく消費者マングク社会」
- 13) 「人民中国」2005年2月号, 特集「13億の生活革命: 吾、60にして人生楽しむ」
- 14) ケン・ブラマー「生活記録の社会学—方法としての生活史研究案内」光生堂, 1987.
- 15) 「近代史研究」, 「論“九・一八”事变後山东地区の関内移民」, 1992.
- 16) 小越平隆「満洲旅行記」善隣書院, 2001.
- 17) 丸山昇「文化大革命に至る道—思想政策と知識人群像」岩波書店, 1998.
- 18) 森岡清美, 新しい家族社会学, 培風館, 1983.
- 19) NHK放送文化研究所, 2005年国民生活時間調査報告書, 2006.
- 20) 「社会学小事典」, 有斐閣, 1997.
- 21) 矢吹晋「文化大革命」講談社現代新書, 1985.